

(1) 実施機関名：

東京大学地震研究所

(2) 研究課題（または観測項目）名：

マルチプラットフォーム次世代WINシステムの開発

(3) 関連の深い建議の項目：

5 計画を推進するための体制の整備

(3) 研究基盤の開発・整備

ウ. 地震・火山現象のデータ流通

(4) その他関連する建議の項目：

5 計画を推進するための体制の整備

(3) 研究基盤の開発・整備

ア. 観測基盤の整備

(5) 総合的研究との関連：

(6) 本課題の5か年の到達目標：

WIN形式データのリアルタイム伝送が機関の枠を超えた全国規模のデータ流通の基盤となっていること、WINシステムが大学等のデータ処理システムで現在広く使われていること等を踏まえつつ、防災科研や気象庁、海外の関係機関等のデータ伝送システムや対話検測処理システムを参考にしながら、現在のWINシステムに代わるマルチプラットフォームのソフトウェア群（次世代WIN）の検討と試作を行う。

(7) 本課題の5か年計画の概要：

平成31年度においては、現WINシステムにおける課題と次世代システムへの要望の集約を行う。平成32年度においては、伝送系システムまたは対話検測処理系システムの検討と試作を開始し、平成33年度に試作品を提供して試用を開始する。平成34年度においては、残りのシステムの試作を開始する。平成35年度には試作プログラムを公開する。

(8) 令和3年度の成果の概要：

・今年度の成果の概要

令和3年度は、前年度に引き続き、次世代の対話検測処理系システムについて試作を進めた。前年度は、複数のプラットフォーム上で動作し波形表示と手動検測の最小限の機能を備えた対話検測ソフトウェアのベース部分を作成した（図1）。今年度は、昨年度試作したソフトウェアを本課題の担当者及び関係者で試用するとともに、震源決定プログラムや地図表示機能（図2）を実装した。また、伝送系システムの仕様について検討を開始した。

・「関連の深い建議の項目」の目的達成への貢献の状況

(9) 令和3年度の成果に関連の深いもので、令和3年度に公表された主な成果物（論文・報告書等）：

・論文・報告書等

・学会・シンポジウム等での発表

中川茂樹・青山裕・高橋浩晃・前田拓人・内田直希・山本希・大竹和生・鶴岡弘・青木陽介・前田裕太・大見士朗・中道治久・大久保慎人・松島健・八木原寛・汐見勝彦・植平賢司・上田英樹・宮岡一樹・溜瀨功史・本多亮・関根秀太郎,2021,マルチプラットフォーム次世代WINシステムの開発(1),日本地震学会秋季大会,S02-04

(10) 令和3年度に実施した調査・観測や開発したソフトウェア等のメタ情報:

項目:ソフトウェア開発(解析)

概要:対話検測ソフトウェアを試作した

既存データベースとの関係:

調査・観測地域:

調査・観測期間:

公開状況:公開留保中(協議のうえ共同研究として提供可) 製作中のため共同研究者のみに公開して不具合修正や機能拡張への協力を求めている。ある程度落ち着いた時点で公開する予定。

(11) 令和4年度実施計画の概要:

令和4年度は,前年度に引き続き対話検測処理系システムの試作品を本課題の担当者及び関係者で試用し,改善点をまとめる。また,伝送系システムについて試作を開始する。

(12) 実施機関の参加者氏名または部署等名:

中川茂樹(東京大学地震研究所),鶴岡弘(東京大学地震研究所),青木陽介(東京大学地震研究所)

他機関との共同研究の有無:有

青山裕(北海道大学),高橋浩晃(北海道大学),前田拓人(弘前大学),内田直希(東北大学),山本希(東北大学),前田裕太(名古屋大学),大見士朗(京都大学),中道治久(京都大学),大久保慎人(高知大学),松島健(九州大学),八木原寛(鹿児島大学),大竹和生(東京大学大学院工学系研究科),汐見勝彦(防災科学技術研究所),植平賢司(防災科学技術研究所),上田英樹(防災科学技術研究所),宮岡一樹(気象庁),溜瀨功史(気象研究所),本多亮(神奈川県温泉地学研究所),関根秀太郎(地震予知総合研究振興会)

(13) 公開時にホームページに掲載する問い合わせ先

部署名等:東京大学地震研究所 地震・火山噴火予知研究協議会 企画部

電話:03-5841-5787

e-mail:yotikikaku@eri.u-tokyo.ac.jp

URL:<https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/YOTIKYO/>

(14) この研究課題(または観測項目)の連絡担当者

氏名:中川茂樹

所属:東京大学地震研究所

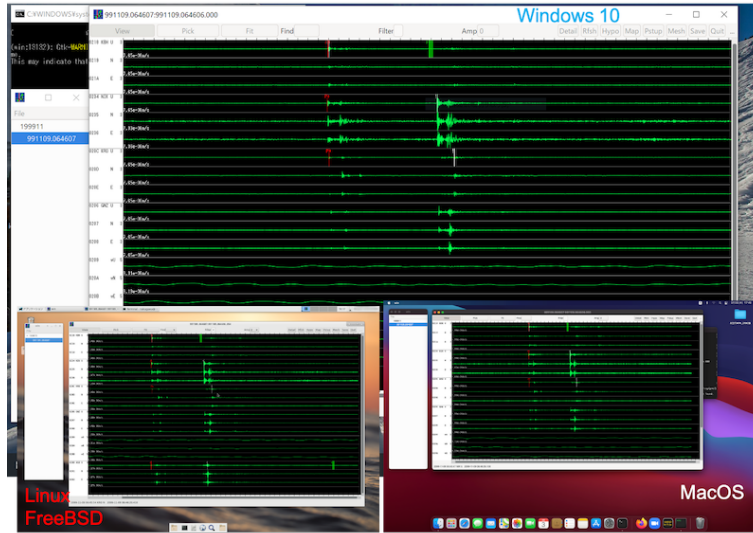


図1 対話検測ソフトウェアの試作品

作成した対話検測ソフトウェアの試作品。Windows, MacOS, Linux, FreeBSDの各OSで動作している。

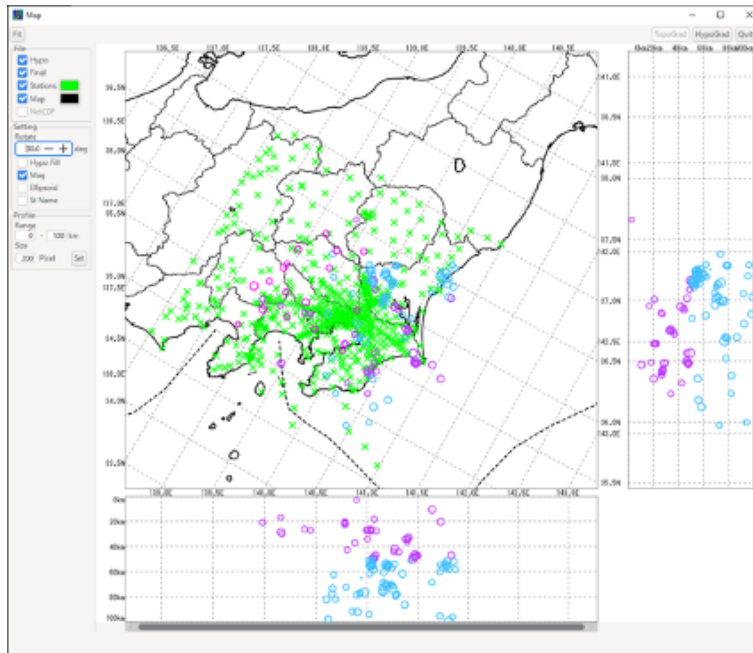


図2 対話検測ソフトウェアの地図表示画面

作成した対話検測ソフトウェアの地図表示画面。震源と観測点が地図上に表示されている。地図は回転することが可能である。